



体育祭 応援パネル



第 36 号

題字・西春彦 著

- 発行所
川辺高等学校東京同窓会
- 編集発行人
鯉坂 悟郎
- 発行日
平成24年10月28日
- 印刷所
株式会社 盈進社
☎03(3262)3471



体育祭 応援団 演武

第36回 総 会

衝撃と危機感が 母校への熱き思いを生む



新制高校校歌

のもと盛大に開催されました。総会に先立ち43年卒の俳諧師佛淵健悟氏をお招きし「一茶と連句文芸の楽しさ」と題して講演していただきました。受講者の中には必死にメモとる姿も見られ、その顔には満足感・充実感が漂っていました。

総会は鯉坂悟郎会長の母校の厳しい現状報告と母校へのエールで開会、会場は衝撃と危機感に包まれました。

続いて、大坪本部同窓会会長、宮園校長、宮園校長先生にご挨拶をいただき、少子化による新入生減少への危機感から、一段と魅力ある・特徴ある学校づくり、母校・同窓会が一体となって取り組む必要性を強く訴えられました。

一方でお2人から、在校生の学業と部活動の両立を目指した奮闘ぶり、そしてその成果の一端が披露され、

参加者は文武両道の母校の伝統が継承されていることに安堵いたしました。懇親会は44年卒の皆さんが司会・進行を務め、27年卒の中禮俊則氏による乾杯の発声で幕を開けました。

特別講演の講師を選者に「空」を題材として投句を募ると、多くの指折る俳人の出現に会場は和んでまいりました。

懐かしい「茶碗蒸しの歌」など合唱が始まり、故郷から取り寄せた焼酎片手に、つけあげ・刺身こんにやくをついばむ頃となると会場は一気に盛り上がりました。

大先輩の皆様が旧制中学校歌を高らかに歌いあげると、若者も負けまいと新制高校校歌を歌いあげ、27年卒の君野満明氏の発声による万歳で懇親会は最高潮に達しました。

校歌は一体感を醸成する不思議な力を持っているようです。衝撃と

危機感で始まった総会・懇親会も母校への熱き思い・団結心へと高揚していきました。

三時間半に及ぶ会合も瞬く間に過ぎ、南谷巨英副会長の閉会の挨拶で懇親会は幕を閉じました。

昭和38年卒 小原東洋明



君野満明氏による万歳三唱



母校存続の危機

東京同窓会会長
昭和32年卒 鯨坂 悟郎

東京同窓会会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。本年6月の第36回総会は約170名のご出席を得て盛大に開催することが出来ました。誠に同慶の至りであります。ご出席頂きましたご来賓、会員の皆様を始めとして企画運営に当たった役員や年度幹事の皆様に厚くお礼申し上げます。

ところで、昨年、東日本大震災に引き続きこの1年全国各地で未曾有の風水害が発生、多くの犠牲者が出ました。ご関係の方々へのお見舞いとお悔やみを申し上げ、被災地の一日も早い復旧・復興を心より願うものであります。さて、母校の現状は極めて厳しいものとなっております。今春の入学者は4クラス・160名定員に対して101名であり、内男子は29名となりました。昨年までは辛うじて4クラス編成でしたが始めて3クラス編成となつてしまいました。生徒数の減少から学校の活力が失われ、将来に向けての展望が持てなくなってしまうことになりかねません。勿論、母校や本部同窓会、

P.T.A等連携して生徒数の増加に懸命のご努力を続けておられますが、少子化による生徒数の減少、近隣高校との生徒争奪、鹿児島市内への流出等、諸々の要因からこのような厳しい現状となっております。

このままでは、来年からの募集定員が3クラス・120名となつてしまいます。その様な事態にだけは何とか阻止しなければなりません。112年にも及ぶ歴史と伝統を有し、薩摩半島の師弟教育の拠点として貢献して来た母校であります。今こそ学校当局、同窓会、地域社会等の総力を結集し県教委や行政への説得陳情も含め最後の努力をしようではありませんか？

東京同窓会としては、今後とも母校や本部同窓会と緊密に連携しながら物心両面で母校の存続、活性化のために貢献して行きたいと考えております。母校あつての同窓会であります。皆様方と力を合わせてこの厳しい難局を乗り越えて参りましょう。

最後に会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



川辺高校発展のため、母校存続のため、絶大なるお力添えを!!

同窓会会長
昭和41年卒 大坪 憲市

明治33年の春、地域住民の熱意で創立され、112年の歴史と伝統を誇り、二万数百名の卒業生を輩出した南薩の最高学府、鹿児島県立第四中学校、鹿児島県立川辺高校。これぞ我が愛する母校である。

6月初め、東京新宿ワシントンホテルで開催された東京同窓会に参加させて頂いた、故郷を遠く離れた関東地域の母校に對する熱く深い思いに触れ、感謝感激!!何としても母校発展のために全力を傾注しなければならぬと決意を新たにいたしました。

同窓会会長をお引受けし一年が過ぎました。この間、各地の同窓会に参加し、8月4日には本部同窓会総会を開催、母校活性化への多くのご意見、ご提言を頂きました。

これらのご提言を参考に、本部同窓会は次の諸点につき活動を開始しています。第一点は地域住民へのアピール不足との指摘に對し、①入学時に比べ卒業時の成績伸び率が県下でトップクラスであること ②後輩たちも先輩たちの

文武両道を継承し部活やボランティア活動に頑張っていること ③全国各地での同窓生の活躍の紹介④南九州市職員40%弱(174名)の卒業生が地域のために頑張っていること、等々を記載したチラシを2回ほど新聞に折り込みPRに努めています。

第二点は中学校とのコミュニケーション不足を指摘されました。これに對し同窓会本部は川高P.T.Aと川中P.T.A、知覧中P.T.Aとの研究会を立ち上げ、年2〜3回の開催を申し合わせています。

第三点は、母校の活性化のために、地域の各界各層より選出し、川辺高校活性化委員会を立ち上げました。母校存続のため中高一貫教育も視野に入れ検討してまいります。

母校は平成24年度募集数160名に對し、入学者数101名と大変危機的な状況です。この状況打開のためには、学校側、P.T.A、同窓会、行政、地域住民が一体となり川辺高校存続のために全力を挙げる必要があります。東京同窓会の皆様方のご理解、ご協力を心からお願ひ申し上げます。



東京同窓会への想い

校長 宮園 秀昭

東京同窓会会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、毎年の卒業記念品贈呈をはじめ物心両面からのご支援・ご協力に対し厚くお礼申し上げます。

さて、今年も東京同窓会総会にご招待いただき、誠にありがとうございます。皆様方や招待恩師で私の三年次の副担野間清光先生との楽しい語らいに加え、一人ではありましたが今春の卒業生が出席し盛り上げてくれたことなど、お陰様で本当に楽しいひとときを過ごすことができました。一方、母校に奉職できたことで陵寿会三回、東京同窓会二回と縁あつて計五回出席させていただきました。そのたびごとに、遠く故郷を離れ母校の発展を願いつつ、後輩の活躍を期待してくださる皆様の母校愛に深く感銘を受けたこと、皆様に温かく迎えていただき励ましのこトばを掛けていただいたことなど、この上もない喜びで終生忘れ得ぬも

のとなりました。改めて感謝申し上げます。

ところで、川辺高校生徒会では悠久の歴史を築いていくために、文化祭・体育祭で、「Let's enjoy 12th」のクラスを一つに学校を一つに感動を二倍に神戈陵魂とともに「のスローガン」を掲げ、盛り上がりを図っています。生徒会長選挙では、立候補者の大半が生徒数の減少を憂い、中学生が来てくれる魅力ある学校づくりを目指す訴え、今川辺高校が直面している課題に目が向いていることに感銘を受けました。同窓会員・生徒たちの思いが受験生に届くことを願わずにはいられません。最後にになりますが、校訓の具現化と文武両道を目指し母校のために最後まで誠心誠意努めて参りますので、今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。東京同窓会の益々の発展と会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



川辺高校の思い出

恩師 野間 清光

この度は、川辺高校東京同窓会にご招待くださりまして誠にありがとうございます。ありがとうございました。

立派に成長され、社会人として活躍しておられる皆さんに久しぶりにお会いでき、嬉しい限りでした。限られた時間でしたが、皆さんと語り合うことができ幸せな一日でした。私は、昭和40年4月から同50年3月まで10年間川辺高校に勤務しました。

ここに当時の思い出を記します。

その一 新任式について

新任式は、旧制中時代の大きな木造の講堂で行われました。高い天井の中央に、大きく立派なシャンデリアが吊り下げられており、少し薄暗い中で行われましたが、生徒は、木製の長椅子に姿勢を正して着席し、全く私語はなく、その厳粛な式に感動しました。

その二 生徒の授業態度について

川辺高校では、「正味50分授業」を努力目標に掲げていました。

始業のベルが鳴る前に教室に行く。と、生徒は既に着席し、いつでも授業が受けられるように教科書を開いて静かにしておりました。授業に臨む真剣さに感心しました。

その三 学校運営について

生徒の学習、進路、生活等あらゆる面に細かい配慮がなされていて、校長を中心に全教師の共通理解の下、組織的、計画的、効率的に運営されたすばらしい学校でした。

私は、川辺高校に勤務したことを誇りにし感謝しております。

終わりに、川辺高校東京同窓会の発展と会員の皆様のますますのご健勝とご多幸を心から祈念してペンを擱きます。

特別講演



一茶と連句文芸の楽しさ

昭和43年卒 佛 淵 健 悟

6月2日の第36回川辺高等学校東京同窓会では、「一茶と連句文芸の楽しさ」という題で講演をする機会を与えて頂きまして有難うございました。

江戸時代連句は、芭蕉・蕪村・一



茶等短詩形文芸のスターたちにとっては表芸で、俳句しかやりませんという俳人はいませんでした。

帷子かたびらは日、にすさまじき鴉カラスの声 史邦
初彦はつひこ弁べんを稲いねのこき賃ぢ はせを

この付句は元禄6年芭蕉たちが巻いた歌仙「帷子は」の発句と脇です。「帷子」は麻製の夏の単衣の着物ですが、秋になってもこれしか着るものがないせつなさに、鴉の音が背に食い込むようであるという発句で、芭蕉の脇は、前句人物を厳しい労働に従事する寡婦と捉えました。小さな扱竹こぎだけを使って稲をこく作業は、秋収めの時期の寡婦や老女の貴重な収入源でしたが、その報酬が「初一升」というのです。芭蕉の独自性は、こうした庶民層の隅々にまで共感的まなざしを向けていることで、「芭

蕉翁すゐの膺むねをかじつて夕涼」という句を詠んだ一茶も又、芭蕉の俳諧に自分を重ねていく生き方を貫きました。一茶の連句には俳句だけからは窺うことの出来ない人生の深淵が垣間見えます。勿論、シリアスなことばかりでなく連句には笑いも恋も時事句もあります。

3年後、鹿児島で国民文化祭が開かれる折には連句部門の大会も計画されています。鹿児島には薩摩狂句という五七五文芸のゆたかな素地があります。「さつま連句」の新しい展開も楽しみです。連句はよき先達を見つけて実作を学ぶことが一番の近道ですが、『連句・俳句季語辞典 十七季』(三省堂/東明雅他)の連句概説等参考に独習も可能です。さて同窓会当日懇親会では、幹事さんの求めに応じ「空」の題で会場から即興で俳句が寄せられるという

趣向もありました。どの句にもふるさとの空への懐かしさがあふれています。

新緑のこもれびの先空の青

堂園俊秋 (38年)

ふるさとの思い出すのは澄んだ空

井上善行 (吹上高校来賓)

夏空や道玄坂のおはら節

参納和子 (43年)

空見れば高くそびえるスカイツリー

山崎幸雄 (薩南工業高校)

木漏れ日にゆらゆらゆれる山紫陽花

瀬戸口哲子 (44年)

久しぶりいなかの夜空かがやけり

植田光江 (44年)

秋の暮れ雀も帰る空もよう

宮脇千清 (44年)

明るさや色なつかしき空の百合

大平政弘 (34年)

なつかしのそらよりひろきとものお

川原修二 (45年)

金の環にかざす幸せ東空

下山健二 (44年)

友と見た彩雲の空奥多摩に

林昭子 (50年)

木苺の甘き香や母の空

木場田文夫 (43年)

陵友だより

伝統を守れ

昭和23年卒 田 口 精 一

久しぶりの出席となった東京同窓会は「新入生、定員割れ」の報告で始まった。そして、年次別のテーブルに同期の姿は無い。文字通り少子高齢化の厳しい現実に向面することになった。生より死が身近な者にとって、同窓会は自身の人生確認の場ともいえよう。

聖戦と信じた戦に敗れ、虚脱と不信の中で見え始めた真実の存在に、心から学習の大切さを味わった私たち世代は、初めて聞く民主主義という言葉に新鮮な解放感を持った。正に「如何に死すべきか」から「如何に生くべきか」への大転換だった。主権者として、より高い学力をつける事は切実な要求であり喜びであった。生活は貧しかったが、「学び舎」には励ましあう仲間がいて、生徒の向上の為に知恵を絞る教師の姿があった。芋畑を埋め共にローラーを轆いて再生した校庭の各処に生徒と教師の会話と信頼が生れ、親も町の

人々も学校を信じ、愛していた。そして高度成長を遂げた、いま、物と情報の氾濫。効率・効果優先の文明は、全国均一の表情、生態が定着、没個性といわれ、苦勞した方言の負い目は消えると共に重みも無くなった。学友や教師と夜を徹して語り明かす中で身につけた相手を思いやる心は、今では余計な煩わしい存在、個室で検索すれば済むのだという。

他人の心配より自分が第一、人生勝利を得る為に進学は大事業となった。地位と高収入は有名校の及落で決ると信じ、世間の常識と疑われない。疑うことを放棄し、平穩の代償に選んだ従属のツケがどんなに大きかったか。学ぶことの大切さを叩きこまれた川辺時代がどうしても甦えつて来る。いま、9月から始まる地方公演「白バラの祈り」の稽古中だが、主人公の女子学生が、ナチズムに抗議、「嘘をついてまで、生き残ろうと思いません」と言い放ち断頭台に消える姿を凝視する後進の存在に毎日元気を貰っている。いまこそ、母校の如何に生くべきかに拘る「本物」教育の伝統を是非継承し続けて欲しいと願う私だ。

喜寿を祝って

昭和30年卒 唐 仁 原 洵

卒業して57年目、昭和30年卒の私どもは数えて77歳、喜寿を迎えた今、その記念すべき同窓会が幹事諸氏の努力のもと、3月9日に鹿児島市内の敬天閣で盛大に開催された。古希を祝う同窓会以来、6年ぶりの同窓会である。恩師の加治先生は体調不良のため残念ながら欠席されたが、総勢27名(女性:12名、男性:15名)が元気に再会を喜び合った。

39名の物故者に黙祷を捧げたあと、乾杯、懇親へと…。時は流れても心



は青春、瞬時にタイムスリップ、昔のままの皆の顔、喜寿を迎えたなど微塵にも感じさせない熱い語らい、歌あり、ハーモニカ演奏あり、楽しい2時間はあっという間に過ぎた。

校歌斉唱、万歳三唱、そして3年後、傘寿の同窓会での再会を堅く誓い合って閉会した。80歳を目前にした若者たち(??)の元氣爆發のひとつとまであった。そしてまた、この元気を母校へのエールとして届けたい、そんな思いのひとつでもあった。

そして2日目、ゴルフ、市内観光など楽しんだ後、2日間の集いに別れを告げた。この同窓会のために力をつくしてくれた幹事諸氏の皆さんに心から感謝の念を抱きつつ…。

失われし時は再び得られず

昭和36年卒 辰 元 克 充

私はリタイア後東京半分、鹿児島半分の生活を続け、特に鹿児島へはかつての仕事仲間や学友を観光案内し、また機会を作っては同窓友人達との集まりを楽しんでいる。

(1)その一端宮崎から拙宅に訪れた友人から送られてきた3句

「台風や腰据え三日居候」

(今回15号も長期暴風雨)



「螢火の如き一戸の灯も故郷」

(拙宅の風情)

「老境にしみじみ聞いて時鳥」

(今年しみじみ聞こえました)

(2)次は誘いに乗って親孝行のため一ヶ月単身帰郷し、介護施設の母親を毎日見舞いながらゴルフ早朝特訓で一定の成果を挙げた同級生の話

7月下旬から8月上旬にかけて私と湯の浦での早朝特訓で13ラウンドを消化して、初ラウンドグロス100から最終ラウンドでは85まで15打も縮めた。

早朝ゴルフの後は毎日施設に通い、遠くに住む兄弟たちに電話で母親との会話の機会をつくり、リハビリ強化にも努めた。

忙中閑あり 古希に失われし時は再び得られず、今を大切に 間を埋め尽くすほどに動き続けたい。

還暦を迎えて

昭和45年卒 川原修二



大学卒業以来ゼネコンの建築工事に勤務していましたが、最初の約15

年間を九州各県で勤務し、バブル時期に関東に転勤となりました。その後関東各都県で勤務しました。この事も一つの理由になるかとも思いますが、関東での「ふるさと会、同窓会」には縁がありませんでした。そこで還暦を迎えて計画する事の一つに、故郷に関する集まりには積極的に参加する事を加えました。この様な理由で第36回川辺高等学校東京同窓会に初めて参加しました。同級生は私以外に女性3名だけで懇親会が始まってすぐは、相当に戸惑いがありました。その思いも焼酎が勧むにつれてだんだん薄れて行き、方言の懐かしさもあって地元の事、世代を超えての事で話が弾みました。懇親会の後は図々しくも先輩方の二次会の席に割り込み失礼しました。これも同窓会の雰囲気慣れる為「来年度の幹事の役割の勉強の為」、であり大目に見てください。有意義な時

間を過ごす事が出来て、心から感謝しております。

46年卒還暦同窓会

昭和46年卒 峯元政公

辰年と巳年生まれの46年卒の還暦同窓会が城山観光ホテルで平成24年8月12日(日)曜日に開催されました。恩師の野間清光先生・篠原興志男(馬場添)先生・馬渡武弘先生の三人の元気なお姿をお迎えし総勢71名が出席しました。現母校校長の宮園秀昭氏のあいさつを皮切りに会が始まりました。あちらこちらから

「おまんないけ」「あんやちゃだいいじあつたけ」の声がかんてききました。また、I子さんは10人の男性から「おまんが好っじやった」と告白され、S男君は女性から「同期で一番若い」と言われ、顔が赤くなる場面がありました。この還暦会に出席して、若いころは男女とも「端正な顔」に人気がありました。が、還暦の年代となりますと「若く見える」ほうが人気があるようです。

同窓会及び二次会の5時間はあつというまに過ぎ、42年ぶり

に会った恩師や友とのこの年月を埋めるには短い時間でした。その思いからか早々に「2年後に東京で同窓会を開催しよう」との提案に出席者全員拍手喝采し三々五々となりました。この会を開催するため名簿作成、案内発送等準備に苦勞された世話役



H24.8.12 馬渡・篠原・野間先生を囲んで 於：城山観光ホテル

人生の転機を迎えて

昭和49年卒 有馬 正史



私は、56歳に
なった今年4月特
定非営利活動法人
さわやか青少年セ
ンター(是非、ホームページをご覧
下さい。)を設立しました。今の子
どもたちに必要な「生きる力」の根
源である人間力(自助力と共助力)
を育んでもらうための支援を行う団
体です。設立のきっかけは、約19年
前、ロッキード事件で田中角栄元首
相に論告求刑した検事の堀田力さん
が途中退官し設立した公益財団法人
さわやか福祉財団に参加したことに
始まります。個人の尊厳を重んじ、
お互いに支え合って生きていく社会
(新しいふれあい社会)づくりの趣
旨に共感し、子どもの健全育成のため
のボランティア活動の普及に努め
てきました。そして、今年堀田さん
からNPO法人をつくらなにかとの
提案をいただき、新たな人生に足を
踏み入れる決心をしました。誠にお
こがましい話ですが奇しくも堀田さん
が転身したのも56歳。子どもたちの
ためにもう一働きしようとして鹿兒島

の「ぼっけもん」の血がさわいでい
ます。

アラ還間近の山登り

昭和50年卒 本田 和幸



二年ほど前、同
窓生グループの飲
み会で「富士登
山」が話題となっ
た。同期・鹿兒島での先生を含めて
の霧島登山などを聞いていたし、山
ガールなる言葉に触発されたのか、
その後、高尾山(3回)や丹沢、奥
多摩、尾瀬を登山/ハイキングした。
メンバー数は数人〜10数人で、下山
後の温泉や居酒屋への立ち寄りも少
なくない。



テレビのコマーシャルに「女は7
の倍数、男は8の倍数の歳が体調の
変わり目」というのがあるし、我々
も四捨五入では60歳だ。アラ還
(around 還暦)間近になってきて、
健康への意識も背景にあるのかも知
れない。高校在学の頃は話すことも
無かった人と山で会話するのは、懐
かしいと同時に不思議でもある。
さて発端となった富士登山は、同
窓会グループとしては未達。還暦前
の達成など、結末には乞うご期待と
いった所だ。

担当年度幹事から

昭和44年卒

中 蘭 建 一

担当年度幹事として、どのような
イベントを行おうかと、皆で話し合
いました。

踊りや演奏等、アイデアが出まし
たが、美声(?)を披露したいとの
声が多く、皆で歌を歌うこととなり
ました。

曲は、「恋の季節」「青春時代」「3
65歩のマーチ」「茶碗蒸しの歌」に
決まりました。「茶碗蒸しの歌」は
郷里(鹿 兒島)の歌でもあり、歌
詞やリズムがおもしろいので決まり
ました。CDが探しても見つからな
かったですが、同級生が鹿兒島から
取り寄せてくれました。

当日は、皆、事前に練習していた
こともあり、会場にご出席の皆さん
との一体感のなか、熱唱し大いに盛
り上がったと思います。

「恋の季節」では、ピンキー役を
同級生(女性)が帽子、ステッキ姿



で、男性陣がステッキを持って皆で歌い、ユーモアのあるものになったと思います。ピンキー役はピツタリの振り付けでした。同級生の皆さんの団結力で、絆がまた一段と深まりました。

昨年、担当年度幹事(43年卒)の方々から、総会終了後の打ち上げに我々44年卒をお招き頂きました。今年是我々44年卒の打ち上げに43年卒の方々をお招きして、合計20数名で合同打ち上げを行いました。年度を越えて交流が深まり、すごく楽しいひと時を過ごせました。

昨年、44年卒の全国版の同窓会が東京で行われ、各地から参加者があり40数年ぶりの再会で皆さん懐かしそうでした。今年は10月に箱根で一泊の全国版の同窓会が行われます。今から楽しみです。

下山 健二
心が一つに通う同窓会

ロンドンオリンピックまで3ヵ月をきった6月上旬に開かれた東京同窓会、同期・同窓会・同郷と聞くと、心・気持ちが一つになるような気がする。と同時に母校・田舎の当時の様子が思い出されます。



ピンキーとキラーズ

私たち44年卒が担当年度幹事という事で、中蘭君が中心になり役割分担と事前調整をし、当日を迎えました。会場の受付に諸先輩方をはじめ同窓生が訪れ、受付を済ませた後も会場の内外では、久しぶりの再会を喜ぶ笑顔ばかりでした。

友人や先輩、後輩と再会の喜びで話が盛り上がりつつあると、まもなく開始時間となり、各テーブルでは昔話に花が咲き、「おー、若けな〜」元氣じゃったか〜と、早くも心・気持ち一つになり、高校・青春時代にタイムスリップしています。

これが同期、同窓会、同郷という言葉の持つ力でしょうか。

心・気持ちを一つにして物事に取組むことに改めて気付かされた同窓会でした。

例年通り今年も東京同窓会が開かれ、母校の近況を聞かせて頂くと共に、同窓生が互いに近況を報告しあつたり、久しぶりに杯を交わしながら笑いの絶えない楽しいひと時を過ごさせていただきました。また、諸先輩方の母校を思う熱き語らいを聞かせて頂くことができ、改めて身の引き締まるひと時でもありました。

宮脇 千清

同窓会やはり校歌で盛り上がりますね。老いも若きも高校3年間の思いに耽り、力強く歌って同窓の団結を感じました。

定年後狭い畑で有機農業をやっています。自分で作ったものを食べるという事は幸せで、ぜいたくだと思います。今は昔と比べて空気が川、海、大地までも汚染されています。人間だけが増え続け、他の動植物がだんだんと絶滅していく状況を考えると、都会では人間同士の争いや事件、事故も多くなり、人類の絶えていくのを危惧しています。もっと人

生のんびりとゆったりと生きてゆきたいものですね。

佐藤 妙子

今回は幹事学年でしたが、事前打ち合わせに参加できずに、不安げに会場に向かいましたが青春時代を共にした歌集等、又俳句の題ありで、見事に会が進行し私達学年の団結力には、感動と感謝でした。リーダーの中蘭さん、お疲れ様でした。

受付担当でしたが、応対の会話の中で互いが、遠く離れた川辺の情景を想いつつ…。

あの灼熱の太陽の下での運動会。中でも昼休みを利用しての神戈陵での応援合戦の練習は、つい昨日の事のように脳裡を駆けめぐります。「郷里は離れて思うもの」と実感です。東京同窓会が、この様に素敵に、継続できたのも、諸先輩方々の温かいご指導と、事務局の方々のご苦勞のお蔭と信じ、深く感謝の気持ちで一杯です。

これからも、益々のご発展をお祈り申し上げます。

母校だより

鹿商と熱戦

2012年夏

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
川 辺	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
鹿児島商	0	0	0	0	1	0	0	0	3X	4



鹿児島商業さんとの熱戦から一夜明け、昨日の様様を新聞各紙でも大きく取り上げていただきました。左側が南日本新聞、右側が朝日新聞です。司会者としては、やはりエース川原君の最後の一球がどうしても気になって、話を聞いてしまいました。

職員室に来てもらって、無理を言って担任の東福先生にも登場願いました。

司会者「最後の一球はどんな球種だったの？」

川原君「スライダーです」

司会者「どんな気持ちで投げたの？」

川原君「打たれるとおしまいだから、きわどいコースをついて、歩かせてもいい位のもりで投げました」
ニユースでも放映されましたが、見送ればボールと判定されるくらいの低めのボールだったようです。

川原君「自信を持って投げた低めのボールをまさかあそこまで運ばれるとは。相手が上でした」
とさっぱりした表情で語ってくれました。

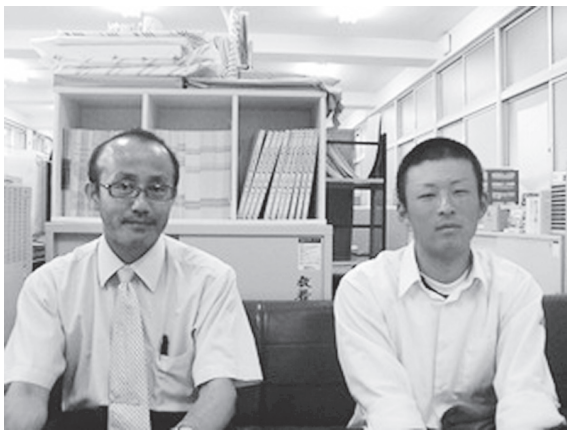
司会者「これからは、自分の進路に向けて一直線だね」

との声に

川原君「はい、頑張ります」

と力強く答えてくれました。今日は、3年生の先生方から、「野球部の生徒たちがとても爽やかな表情で

授業に臨んでいましたよ」との声をたくさん聞かせてもらいました。「やればできる」気持ちで負けないことの大切さ」など多くのことを学び、たくましく成長してくれました。今度は、それぞれの夢に向かって努力あるのみですね。最後まであきらめずにチャレンジしていけば、きっと希望は叶うはずですよ。受験の天王山夏休みをしっかりとリードしてください。期待しています。1・2年生は、先輩たちを超えるように頑張ってください。目標はでっかく。ぜひみんなを全校応援に連れていってくださいね。こちらからもまた、期待しています。



関東さつま川辺会

第23回総会は、平成25年3月9日(土) 12:00よりホテルメトロポリタンエドモント(千代田区飯田橋)で開催致します。川辺出身の方に限らず、ご縁のある方々のご参加をお待ちしております。

会長 川野博一
(川辺高昭和37年卒)

連絡先 三鷹市中原3-8-30
事務局 吉留浩一 (0422-26-7065)

がん検診・胃腸科・内科・外科・皮フ科

湘南長沢医院

○診療時間: AM9:00~12:00 PM3:00~7:00
○休診日: 水曜・祭日・日曜午後
院長 鯉坂秀明(昭和28年卒)

横須賀市グリーンハイツ3-8(京浜急行長沢駅前)

TEL046(849)4114

環境革命のシナリー化粧品

「石油からつくられる
化学合成物質を原料にしない」
製品づくりです

〒140-0013 東京都品川区南大井6-20-17

シナリーモード営業所

TEL 03-3761-7816 FAX 03-3761-6598

石山 道(昭和28年卒)

京浜東北線JR大森駅下車北口を右のエスカレーターを降りて徒歩5分。お気軽にお電話下さい。

過去3年間の進路状況

年度卒	21	22	23	年度卒	21	22	23	
国立大学	鹿児島大学	9	9	6	鹿児島国際大学	32	26	15
	宮崎大学	5	2	1	鹿児島純心女子大学	3	4	2
	熊本大学		1		志学館大学		6	4
	大分大学	5		2	第一工業大学	1		2
	長崎大学	1		4	福岡大学	7	1	10
	その他	4	4	8	久留米大学	1	5	7
	小計	24	16	21	九州産業大学	2	3	7
公立大学	都留文科大学	4	2	3	筑紫女学園大学	1		4
	北九州市立大学	1		4	九州看護福祉大学	2	2	3
	長崎県立大学	1	1		法政大学			1
	宮崎公立大学	1	1	1	帝京大学			1
	名桜大学(沖縄)		3		高千穂大学			1
	その他	4	3		青山学院大学			1
小計	11	10	8	関東学院大学			1	
公立短期大学	鹿児島県立短大	5	3	6	東海大学	2		
	大分県立芸術文化短大	1		3	慶応義塾大学	1		
	倉敷市立短大	1	1	1	立正大学		1	
	その他	1	1		その他	38	27	26
小計	8	5	10	小計	90	75	85	
私立短大	鹿児島女子短大	9	12	7	専門学校	46	40	57
	鹿児島純心女子短大	6	8	5	就職	3	4	3
	その他	7	14	3				
小計	22	34	15					
文部省所管外	九州職業能力開発大学校	8		4				
	京都職業能力開発短大			4				
	その他	6	2	1				
小計	14	2	9	合計	218	186	208	

来年の総会案内

平成25年6月22日(土) 新宿ワシントンホテルで開催

します。

年度幹事は、昭和45年卒・55年卒の方々です。

是非お友達をお誘いあわせの上ご参会を!!

先輩、後輩のみなさん高田馬場の

郷土料理+「薩摩の里」にぜひ

おじゃったもんせ!!

新宿区高田馬場4-18-10-2F
TEL 03(3363)3258 FAX 03(3350)1483
予約 40名様可能 営業時間 午後5時より午前1時まで
定休日 第1・第3日曜日 高田馬場駅徒歩5分
店主 山下由人(知覧出身、S48年卒)



厚生労働省認可労働保険事務組合
東京都労働保険協会

全日本社会保険労務士法人

会長 荒殿忠洋 (S37年度卒)

〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-4-1 8F
TEL03-3222-4111 FAX03-3230-1733
URL http://www.01166.com/

私の生きた時代と故郷

— 残映春秋残月夢幻 —

共著 安田耕作 司馬楚十
去来舎楚人 ドン・コサック

かごいまべん大すぎ、わけエーたい大すぎの著者が十年がかりで考えた明治維新を始め戦争の時代から昭和百年のわけエーたいのこと、日本のこと、世界のこと、人口問題、水エネルギー、食糧、地球温暖化、異常災害、原発のことそしてテロのこと。そしてやっぱり懐しい七高のことや川辺中学のこと。今宇宙船地球号は洋の東西南北を問わず病んでいる。天気晴朗ならず、大洋の波はあくまでも高い。どうする日本。日本の生きる道は文(科学技術)・武(薩摩武士道)・農(産業)の三つにあり、今世界は西郷武士道の復活を必要としている。(¥一八〇〇+税)。お求めは

- ・鹿児島市中中央町アマミプラザ四階紀伊国屋書店(TEL〇九九八二二七〇〇〇)
- ・東京・かごしま遊楽館(TEL〇三三三〇六九二一七)
- ・枕崎・枕崎市 ぼよう(TEL〇九九三三七一二五八)
- ・万世・万世特攻平和祈念館(TEL〇九九三三三三九七九)

(株)ジェイ・ケイ・ブイ

アジア圏を中心とした貿易業務
(機械・電機・建設・投資案件等が中心)
本社：千葉県君津市、営業所：日本橋大伝馬・韓国釜山

NPO ライフ・サポートینگ君津

知的障害者生活ホーム・学童保育
居宅介護支援・デイサービス他

TEL 0439-55-3969・4607
E-mail: acata@jcom.home.ne.jp
E-mail: life1273000198@ybb.ne.jp

出身：知覧、43年卒 高田和明

藤井光春法律事務所

弁護士 藤井光春

(川辺中昭和17年準卒)
坊津町久志出身

〒105-0003
東京都港区西新橋1-21-8
弁護士ビル707号室

平成23卒業年次別年会費入金者数一覧表 (平成20年卒以降を除く)

年次	会員数	入金者数	入金率(%)	年次	会員数	入金者数	入金率(%)	年次	会員数	入金者数	入金率(%)
女学	19	5	26	昭29	30	7	23	昭56	5	3	60
昭2	1	0	0	々30	40	16	40	々57	5	0	0
々4	0	0	0	々31	28	8	29	々58	2	1	50
々5	0	0	0	々32	36	20	56	々59	3	0	0
々7	2	0	0	々33	41	21	51	々60	1	0	0
々8	1	0	0	々34	42	20	48	々61	1	0	0
々9	0	0	0	々35	46	20	43	々62	1	0	0
々10	1	0	0	々36	40	16	40	々63	0	0	0
々11	0	0	0	々37	34	15	44	平1	1	0	0
々12	1	0	0	々38	29	7	24	々2	4	0	0
々13	1	1	100	々39	27	8	30	々3	2	0	0
々14	4	2	50	々40	34	6	18	々4	1	0	0
々15	1	0	0	々41	42	10	24	々5	0	0	0
々16	4	1	25	々42	40	6	15	々6	2	1	50
々17	7	3	43	々43	64	24	38	々7	0	0	0
々18	6	6	100	々44	35	11	31	々8	0	0	0
々19	11	3	27	々45	30	7	23	々9	2	1	50
20前	5	2	40	々46	37	9	24	々10	0	0	0
20後	9	2	22	々47	29	5	17	々11	0	0	0
々21	4	2	50	々48	31	11	35	々12	0	0	0
々22	8	2	25	々49	37	5	14	々13	1	0	0
々23	11	3	27	々50	28	5	18	々14	0	0	0
々24	8	1	13	々51	31	11	35	々15	0	0	0
々25	32	14	44	々52	27	8	30	々16	4	1	25
々26	18	7	39	々53	1	1	100	々17	0	0	0
々27	36	16	44	々54	5	0	0	々18	2	0	0
々28	32	12	38	々55	6	1	17	々19	0	0	0
								合計	1129	367	33

平成23年度 会務報告

23年4月2日 役員会
 4月17日 評議員会(東京し)とセンターにて) 出席者:45名
 議題
 1. 第35回総会・懇親会について
 2. 役員改選について
 3. 創立110周年記念事業募金について
 4. 母校の活性化対策について

5. 会報誌の送付対象者について
 第35回総会・懇親会案内状の発送作業(東京し)とセンターにて)
 5月28日 事務局総会1ヵ月前の打ち合わせ(同窓会事務局にて)
 6月18日 事務局総会1週間前の打ち合わせ(同窓会事務局にて)
 薩南工業高校同窓会関
 東支部総会へ鰐坂会長出席
 6月24日 本部同窓会・母校との交流会(如水会館にて)
 6月25日 第35回総会・懇親会を開催(如水会館にて)

7月23日 役員会(薩摩の里にて)
 議題
 1. 35回総会について
 2. 会報誌「神戈陵35号」について
 7月5日 会報誌「神戈陵35号」の原稿及び広告依頼文の発送
 9月10日 会報誌「神戈陵35号」の校正
 10月10日 関東知覧会総会へ鰐坂会長出席

10月22日 吹上高校関東地区同窓会へ南谷副会長出席
 10月29日 会報誌「神戈陵35号」の発送(同窓会事務局にて)
 24年2月5日 南さつま市関東ふるさと会総会へ鰐坂会長出席
 2月12日 関東さつま川辺会総会へ大平副会長出席
 2月29日 母校卒業生に記念品(ボールペン)を贈呈

平成23年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告

自:平成23年4月1日 至:平成24年3月31日

収入の部	金額	支出の部	金額
総会会費収入	1,376,000	総会費用	1,596,641
年会費収入	434,000	会報誌作成費・通信費	276,655
		金庫費(金庫費等)	22,164
会報誌広告収入	60,000	通信費	12,920
寄付金	142,000	卒業生記念品	68,040
郵便貯金利息	62	他会出席	40,000
		事務用品費	3,994
		雑費	37,140
		搬送料金	22,800
前期繰越金	564,433	翌期繰越金	496,141
合計	2,576,495	合計	2,576,495

出席者総数 188名

内訳(会員男性 99名、会員女性 69名、学生 1名、会員外 4名、来賓者 15名)

上記の件、監査の結果相違ありません。

平成24年5月23日

会計監事 小原 東洋明(印) 馬海 睦子(印)

編集後記

今年、天文ゴールデンイヤ(金冠日食・太陽面通過・金星食)、ロンドンオリンピックで日本のメダル数史上最多の38個獲得、世界一高い電波塔「東京スカイツリー」が5月22日に誕生し、日本中が賑わいました。
 表紙の体育祭の写真及び学校だよりは「川辺高校ブログ」から掲載させていただきました。
 このブログは多い日で1000件のアクセスがあり、ご存じのない会員の方は是非「川辺高校ブログ」と検索しご覧いただければと思います。僚友だよりに寄稿いただいた田口精一さんは、俳優として現在も劇団民藝で活躍されている方です。

【編集者】南谷(36年卒)・小原(38年卒)・鳥海(38年卒)・岡本(43年卒)・椎原(48年卒)・蔵元(49年卒)・中原(52年卒)・樋渡(55年卒)・田中(56年卒)

事務局からのお知らせ

本号は、前号でもご案内させていただきましたが、収支状況の困窮から、平成21年〜23年の3年間で年会費の納入のある会員に送付させていただいております。

知的創造

何を創るかはおまかせします
 どのように造るかをお手伝いします

企画編集から製本まで
 自費出版を応援します!!
 カラー名刺・絵ハガキ
 小部数でも安価でできますご相談下さい

Eishin 株式会社 盈進社
 代表取締役社長 下園典子(金峰町出身)
 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-2 三信ビル
 TEL 03-3262-3471(代) FAX 03-5210-7226
 URL: www.eishinsya.co.jp Eメール: info@eishinsya.co.jp